

第3学年 国語科学習指導案

日 時	平成21年11月12日(木) 5校時
場 所	3年A組 教室
学 級	3年A組(男19、女19、計38名)
授業者	千 田 裕 子

- 1 単元名 4 古典を楽しむ
教材名「君待つと一万葉・古今・新古今」

2 単元について

(1) 生徒観

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、本校生徒は岩手県全体の結果と同様、「読む能力」が他の能力に比してやや落ち込んでいる。中でも、「本文の展開に即して内容をとらえる」「本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取る」問題は、本校生徒にとっても得意なものではなく、諸テストの誤答には、読み誤りや思い込みによるものが多い。また、まとまった分量の文章を読むことに抵抗を示す傾向もある。読む必要にせまられて読む場を授業の中に取り入れるようにしているところである。

これまで生徒は、小説「故郷」の学習において、小説を読むときの視点(情景描写・象徴・対比・感情表現)を学び、さらに課題に対する自分の考えを決めるとき、答えがどうであるかよりも、その根拠を表現できることが大切であるということを学んだ。「はじめは～だったけれども、〇〇さんの考えを聞いて、～に気づいた。～に変わった。」という感想も多く、4月以来、「自分の表現を他者はどう思うのか聞く」「自分と違う視点をもつ人の考えを聞く」場をもってきたことを反映している。

また、単位時間の中や各単元の最後に、書く活動をしてきた。例えば詩の授業では構成を生かしたリライトを行った。論説文の学習の次に、新聞(カコミ記事)の文体で記事を書いた。俳句では一人称作文を書き、小説では視点を転換してリライトした。その結果を見ると、様式や文体、付加条件を意識して書ける生徒は7割である。

俳句の授業の最後には、ミニ句会を行っている。作品を味わうだけでなく、俳句の世界に浸り、楽しむ経験にはなった。

(2) 教材観

この単元では、古典の世界を現代の心で読む楽しさを味わい、自分の文章に古典を取り入れられるようになることをめざす。

新学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のアには、「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。」とある。作品が生まれた時代性を考えれば、万葉集には万葉集の読み方がある。万葉集では音読を楽しみ、古今集、新古今集では「模擬歌合」に取り組むことによって、平安・鎌倉時代の歌をより深く味わい、その時代の人々にとって歌とはどういうものだったのかを垣間見ることができるだろう。

今回の「模擬歌合」では、題詠のように「色彩」「恋しい気持ち」「秘めた恋」「三夕の歌」というテーマによる組み合わせと、同じ作者(西行法師)による歌の組み合わせにした。共通点をもつ歌を組み合わせることによって、それぞれの特長が際立ち、同じテーマでも様々な表現方法があることがわかるだろう。一読しただけではわからないが、歴史的背景や表現上の技法などを考えながら読み解くほどに、歌の世界が広がっていく喜びこそが古典を読む喜びである。それを実感できるような教材であると考えている。

(3) 指導観

生徒たちにとって、国語の授業でこれほど多くの和歌に触れるのは初めてである。この機会に、古典を読む楽しさを味わうために、当時の人々の思いを「追体験」する。当時の

作歌事情は現代とは大きく異なる。しかし、そこに歌われる思いには、現代人である生徒にも通じるものがあるだろう。作者が生み出した世界をどう読むか。古典の世界を現代の心で読む楽しさを味わうためには、作者がどんな思いで読んだのかを考えるだけで終わらせたくない。そのために、同じ題材をどう歌に表しているかを読み比べることを通して、より深く歌の世界に踏み込む楽しさを味わわせたい。

「歌合」は、ある時代には出世にもつながる公式行事であった。反面、心を生々しく吐露したものではない場合も多い。しかし、同じ心を歌ったものでも、その表現にはさまざまな工夫やそれぞれの視点の面白さがある。中学2年までの指導事項にはなかった「古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと」につながる読みを実現させるには、和歌の凝縮された表現を用い、よさを伝えたり「判詞」を書いたりすることが有効であると考えられる。

また、「判詞」は様式で言えば「評論文」にあたる。中学3年生には手ごたえのある課題になるが、評論文の様式を意識し、和歌の一部を引用したり、二つの和歌を比較してよさを述べたりすることに挑戦をさせたい。

3 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

- ・ 和歌に歌われている作者の思いと自分の思いを結び付けて読もうとする。
- ・ 他の考えを聞き、自分の考えとすりあわせ、新たな考えをもとうとする。

(2) 読むこと

- ・ 作者の視点、表現の仕方について比較・評価しながら読むことができる。【読むこと(ウ)】
- ・ 作者の表現の工夫に注意して読むことができる。【読むこと(ア)】

(3) 書くこと

- ・ 自分の考えを、和歌や詞書の一節を引用しながら書くことができる。【書くこと(イ)】
- ・ 付加条件に合わせて書くことができる。【書くこと(ア)】

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)】

4 授業改善の視点

視点① 基本的な学習過程の工夫

- (ア) ゴールを見通した単元構成の工夫。
- (イ) 読んだこと生かして書く活動を設定する。
- (ウ) 読み比べる視点を持てる課題を設定する。
- (エ) 学習計画表に、学んだことや自分の考えを毎時間書く場面を設定する。

視点② 家庭学習との関連

- (ア) 音読を全員にさせる。事前に指名しておき、練習の機会を与える。
- (イ) 学習計画表の中に家庭学習の手引きの項を設ける。
- (ウ) 歌合の記録を家庭でも読み、判定について家族と話し合う機会をつくる。
- (エ) 多くの和歌に触れるために資料を活用する。

その他の工夫

- (ア) 「歌合」の方法で歌の優劣を考えることを通して、和歌を読み深める。
 (イ) つまづきを軽減するために個の作業をグループで行う場合と、個の読みを大切にするために個々に作業を行う場合を使い分ける。

5 本教材の指導計画

時 間	学習内容	具体的評価規準
1	歌合の記録を読む。 学習課題、学習の流れを理解する。 視点①基本的な学習過程の工夫 音読 視点②家庭学習との関連	【関】 課題意識、学習の見通しをもっている。
2・3	万葉集を読む。	【読】 表現に隠された意味を読み取り、歌のリズムを味わいながら読んでいる。
4・5	古今集・新古今集を読む。	【読】 歌合で競い合う和歌の表現の工夫を読み取っている。
6・7	模擬歌合をする。 判詞を書く。 視点①基本的な学習過程の工夫 視点③小・中の連携	【読】 表現の工夫、作者の視点を比較・評価しながら読んでいる。 【書】 和歌の一節を引用しながら文章の形態や構成に合わせて自分の考えを書いている。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・表現の工夫、作者の視点を評価しながら読むことができる。(読むこと)
- ・自分の考えを、和歌の一節を引用しながら評論文を書くことができる。(書くこと)

(2) 具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 「努力を要する」と判断された生徒への具体的な対応・手立て
読む	二つの和歌の表現の工夫や作者の視点を比較し、自分の価値規準をもつて評価している。	二つの和歌の表現の工夫や作者の視点を比較し、評価している。	・グループでの交流において、他の生徒とつなぐ。 ・鍵になる言葉に注目させる。
書く	自分の価値基準を明らかにし、和歌の一節を引用しながら自分の考えを書いている。	自分の考えの根拠になる表現として、和歌の一節を引用しながら自分の考えを書いている。	・グループでの作業において、他の生徒とつなぐ。 ・書き出しを示す。 ・文例を示す。

※ 歌合の方法

- ① 二つのグループで競う。
- ② 同じ題材・作者の作品二首を競わせる。
- ③ 自陣の和歌について、優れている点を言い合う。
- ④ 判定はその他のグループの生徒たちによる(衆議制)。
- ⑤ 判詞に判定の理由を書く。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	○教師の評価 ★支援 *留意点	備考
導入 5分	1 課題設定	作 ① 音読をする。 【視点②】家庭学習との関連 本時の和歌について音読する。	* 本日の歌合の和歌を音読で確認する。	紙板書
展開 40分	2 課題追究	作 模擬歌合をする ② 披講する。 左陣から ・紙板書をはる。 ・朗読する。 ・大意を読む。 ・優れている点を語る。 →右陣も同様に披講する。	* 同じテーマの和歌二首の披講を聞くことで、表現の良さを理解させる。 ○ 表現の工夫や作者の着眼の良さを指摘しているか。 ★ 修辞法の効果にも目を向けさせる。 * 判詞の構成等については、事前に学習しておくことで見通しを持たせる。 * 二つの和歌を比較することでよさを明確にした い。 ○ 和歌の一節を引用し、具体的な叙述に触れて書いているか。	紙板書
		作 ③ 判定する。 ・ミニ判詞を2分で記入する。 ・判詞を聞きあう		
	3 課題解決	作 ④ これまでの競い合いの中から、一番を選び、20分で判詞を書く。 【視点①】基本的な学習過程の工夫 読んだことを生かして書く ⑤ 判詞の交流をする。 ・グループで ・全体で		判詞用原稿用紙 語彙表
終末 5分	まとめ	作 ⑥ ワークシートへの記入と本日の家庭学習の確認 【視点②】家庭学習との関連 判定について家族と話し合う	* 家庭学習の内容はワークシートにある。	

どちらの和歌が優れているだろう。